

活動実績報告書

平成 28 年 1 月 4 日

登録番号 2015616

氏 名 生田 雅己

1. 活動状況

平成 26 年 4 月 ~ 平成 28 年 3 月

(記載事項)

・ 活動の概要

目標林型の考えを地域の林業に反映させるため、所属事務所の森林総合監理士や准フォレスターでプロジェクトチームを結成し、検討を行った。

主な取り組みとしては、林業経営に明確な方針を持つ指導林家等と意見交換会を開催し、その内容をもとに、プロジェクトチーム内で勉強会を開催した。また、林業経営および目標林型を考える上でベースとなる森林の健全性を把握するため、地域の森林に調査地を設け、プロット調査を行い、森林の健全性の評価方法を検討した。

・ 当該活動を挙げた理由

森林総合監理士は、森林経営計画の策定支援が役割の一つに有り、長期的な展望に立ち、森林の多面的機能を発揮させる適切な森林の管理を進めるためには、将来目指すべき森林の姿である目標林型を見極め、森林経営計画作成の主体となる、森林施業プランナー等に提案する技術力を身に付けることが重要となる。

・ 当該活動における、あなたの立場と役割

プロジェクトチームのリーダーとして、本プロジェクトを発案し、指導林家等との意見交換会やプロジェクトメンバー内の勉強会では、ファシリテーターとして意見の集約を行った。

・ 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

森林の健全性における評価については、プロット調査により評価が可能であることが確認できたが、現況と評価が異なる部分も確認できた。まずは、客観的に、正確に森林の現況を評価する方法の確立を目指すため、継続的に調査し、評価手法を再度精査する。

・ 活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

森林の正確な現況の評価方法を確立し、その結果から目標林型へ誘導する道筋を立てていく必要があるため、成長予測のシミュレーション方法の検証を行っていく。

そして、その成長予測により、想定する目標林型へ誘導可能であるか確認する方法を検証し、目標林型の可否の判断基準の確立を目指す。

さらに、目標林系には、どのような材を作るかという生産目標を定めることが重要であるため、林業経営の経済性や生産性なども考慮し、川下の需要や路網密度などの情報を盛り込んだ判断基準を整理していく。

最終的には、この判断基準等について、森林所有者から施業の委託を受けた森林組合の森林施業プランナーや、森林経営計画の認定を行う市の担当職員を対象とした研修会等を実施し、目標林型の考え方を地域の林業に反映してもらうことで、森林所有者の思いのこもった森林経営計画となり、適切な管理が行えるようになる。

注1:1. 活動状況については、直近の過去5年間に、森林総合監理士としての活動に関連していると考えられる、又は森林総合監理士として取り組んだ具体的な活動内容を記載してください。

2. 研修の受講状況

研修名 平成25年度フォレスター研修 平成25年8月
(実施主体)林野庁

研修名 森林総合監理士育成事業実践研修 平成27年10月
(実施主体)林野庁

研修名 _____ 平成 年 月
(実施主体)

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

・地域の森林総合監理士と准フォレスターのプロジェクトチームにより、豊田市森林整備計画のモデル地区を設定し、ゾーニングの見直し等の検討及び豊田市への提案を行った。
(平成26年12月)

・県全体で実施している森林経営計画策定支援のプロジェクトに参加し、目標林型の検討、国有林と連携し、県内の市町村職員及び森林組合等を対象とした天然更新完了地の見学会を開催。(平成27年10月)

・豊田市の森づくり構想のリニューアルに向けた、意見交換会に参加。
(平成27年11月)

注2: 2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3: 活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4: この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。